

## 令和4年度秋田県男女共同参画審議会要旨

### ■日 時

令和4年11月4日（金） 15：00～16：30

### ■場 所

秋田県総合庁舎 6階 605会議室

### ■出席者

#### 【秋田県男女共同参画審議会委員】

遠藤委員、木山委員、小玉委員、竹田委員、長谷部委員、松坂委員、柳田委員、  
山名委員

#### 【事務局】

陶山理事、水澤あきた未来創造部次長、六澤次世代・女性活躍支援課長、佐藤次世代  
・女性活躍支援課政策監 ほか関係職員

### ■議 事

#### ●次世代・女性活躍支援課

会議の成立についてご報告をいたします。本日は委員10名中8名にご出席いただき  
おり過半数に達しておりますので、秋田県男女共同参画推進条例第22条第3項の規定に  
より、会議が成立していることをご報告します。

議事については、秋田県男女共同参画推進条例第22条第2項の規定により、会長が審  
議会の議長となることから、ここからの進行は山名会長にお願いしたいと思います。

#### ○山名会長

議長を仰せつかりました秋田大学の山名です。どうぞよろしくお願いします。

本日は、第5次秋田県男女共同参画推進計画の取組状況についての御意見をいただく  
ことになっております。

未だ、コロナ禍ではありますが、このような状況における女性の自殺率の高さや困窮家  
庭の増加、女性の管理職比率や男性の育児休暇の取得率を継続的に増やす取組等、様々な  
視点からの議論がこの審議会では求められており、皆様のお立場からの意見交換等を積  
極的に行っていききたいと思いますのでよろしくお願いします。

まず、議事に入る前にお諮りします。

審議会の会議は原則公開することとなっております。後日、作成する会議要旨等につい  
ても、委員のお名前を含めて公表することとなりますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

ありがとうございます。

それでは議事に入りたいと思います。

議事4 第5次秋田県男女共同参画推進計画の指標の変更について、事務局から説明をお願いします。

●次世代・女性活躍支援課

第5次秋田県男女共同参画推進計画の指標の変更理由、考え方等について  
資料1に基づき説明

○山名会長

それではただいまの説明について、御意見、御質問等ございませんか。

○竹田委員

目標の一部を上方修正するという事で、その変更理由は新秋田元気創造プランと第5次秋田県男女共同参画推進計画の整合性を図るということでしたが、具体的にどのように整合性を図ったのでしょうか。プランの中でこういう数値を上げたから推進計画の目標値も修正するという事なののでしょうか。

●次世代・女性活躍支援課

上方修正というのは、新秋田元気創造プランにおいて第5次推進計画の数値よりも高い目標値を掲げたため、そのプランの数値に推進計画の数値を合わせて整合性を図るということになります。

○長谷部委員

従業員数が100人未満の企業数は県内で何社くらいあるのでしょうか。もし分かれば教えて下さい。

●次世代・女性活躍支援課

お調べして後からお知らせします。

●次世代・女性活躍支援課

なお、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定について、これまで支援の対象としていた、従業員101人以上300人未満の、いわゆる今回法律で策定が義務化になった企業数は把握しておりまして、267社になります。これらの企業については、届け

出率が 100%になっていることを御報告させていただきます。

○山名会長

それ以外で、何か御意見等があれば伺いたいと思いますが、何かございますか。

○遠藤委員

県内民間事業所の管理職に占める女性の割合について、23.0%の目標になっていますが、全国平均や東北地区など、何か比較対象になるような数値を示せないでしょうか。現在の状況でも構いません。

●次世代・女性活躍支援課

令和3年度の本県の実績が20.7%であるのに対して、全国平均は12.3%ということで、全国平均の方が低い状況にあります。

○小玉委員

秋田県版健康経営優良法人とは具体的にどのような取組が優良である法人なのかを教えてくださいたいと思います。

●健康づくり推進課

健康経営について対象となるのは秋田県内で事業活動を行う企業、団体、個人事業主となっております。実際の認定基準につきましては様々ありますが、健診、特定健診の実施ですとか職場の方々が社会参加の取組を行っているかなどで、その項目をクリアした法人が健康経営の認定ということになります。

○竹田委員

新秋田元気創造プランは、どこの部局で担当されているのでしょうか。

●次世代・女性活躍支援課

プラン全体のとりまとめは企画振興部の総合政策課が担当となります。

○竹田委員

順調に実績値が伸びているということですが、目標値を上げると達成率が下がってしまうこともあり得ます。当初見込んでいた令和7年度の目標値を上げて大丈夫なのかという判断は、次世代・女性活躍支援課で行っているということですのでよろしいでしょうか。

●次世代・女性活躍支援課

プランは県全体の指針でございまして、それぞれの項目ごとに、達成に向けてどういう取組をするかということを検討して進めていきますが、期間の途中までの実績値が目標値に近づいているものについては、より取組を強化することで更なる高みを目指すという意味で目標を設定し直して、それを総合政策審議会にお諮りし、県議会にも御報告します。そのため、当然、各課で十分に議論して見直した目標値ということになります。

○竹田委員

そうすると、今、ちょうど半分くらいの期間が経過し、残りの3年間で目標値まで達する可能性が高い目標が、令和3年の実績値に基づいて判定されているということになるのでしょうか。

●次世代・女性活躍支援課

第5次秋田県男女共同参画推進計画は、令和3年度から令和7年度までの計画でありまして、プランは今年度から4年間の期間で実施するものであります。目標ごとの進み具合はそれぞれですが、例えば、県内民間事業所の女性管理職の割合は令和3年度が20.7%でありまして、年々増えてきております。その増え幅を見ても当初の目標の21.5%は超えるだろうということで更なる高みを目指して23.0%にしたものであります。また、男性の育児休暇取得率につきましても令和3年が14.8%とすでに目標の12.0%を超えておりますので、これも16.0%という、さらに高い目標を設定したものであります。

○松坂委員

今議論されている内容については、新秋田元気創造プランを策定するにあたって、男女共同参画推進計画とすり合わせた結果、数値を上げるということになったのだと思います。当然、目標を高くすることは結構なのですが、先ほどから懸念されているように、高い目標をどうやって達成していくかということが課題だと思います。今回は、その辺を承知した上での目標値アップだと思いますので、これからも対策をしっかりと進めていけば良いと思います。

○山名会長

それでは、修正等を求めるという御意見はありませんでしたので、令和7年度目標値の修正については議案に異議のない旨を知事に答申するという事でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

それでは、そのように決定したいと思います。

次に次第5の報告に入ります。

(1) 第5次秋田県男女共同参画推進計画の取組状況、(2) 第5次秋田県男女共同参画推進計画に関連する令和4年度事業の2件について、事務局より説明をお願いします。

#### ●次世代・女性活躍支援課

第5次秋田県男女共同参画推進計画の取組状況、計画に関連する令和4年度事業について、資料2～4に基づいて一括で説明

#### ○山名会長

ただいまの説明について、御意見、御質問等がありましたらお願いします。

#### ○長谷部委員

まずは高校教育課にお礼を申し上げたいと思います。私は人権擁護委員として、男鹿市、南秋田郡、秋田市で活動しています。委員組織の中には男女共同参画委員会がありまして、高校生に対するデートDVの防止授業をやろうということになり、今年の3月に高校教育課に相談に行って、各高校に人権擁護委員がDV防止の授業をやるということを周知していただきました。しかし反応がなくて、まだ授業はできていませんが、今回の資料を見ますと、DV授業の実施高校数が目標値を超えているようなので良かったと思っています。また、「一層のデートDV予防教室等の実施を促す」、「各校が作成する年間計画の中に含めるよう指導する」と記載されています。我々人権擁護委員が直接各高校の学校長にお会いしてお願いしようかと思っていますが、さらにデートDV防止の教室を行う高校が増えるように一層頑張っていただきたいと思いますし、引き続き、我々への協力もお願いしたいと思っています。

#### ●高校教育課

協力できるところはどんどん協力したいと思いますので、御協力をお願いします。

#### ○山名会長

高校生に対してという点がとても重要だと思う一方で、義務教育が終わってどこにも所属していない人たちも男女問わずいますし、職場等でもこういう機会があれば良いと思うのですが、例えばずっと家にいる子たちにも、周知ができれば良いと思いました。

ほかに何かございますか。小玉委員お願いします。

### ○小玉委員

取組状況の中でお聞きしたい点があります。資料2の中の、「こころとからだの相談者数」の課題欄に不妊治療へのニーズという記載があるんですけども、コロナ禍もあって、私の周りにも精神のバランスを崩している方がたくさんいて、そういった方のカウンセリングや相談の場が必要だと思っているんですが、そのような方の相談数も入っているのかどうかをお尋ねします。

また、若者の自立支援についてですが、若者ではない中高年の方たちの中にも外に出られない方がいるという状況の中で、若者だけの指標で良いのかと漠然と思ひまして、そのあたりの取組もお聞きしたいと思ひます。

あと、資料3の「女性農業者が輝く多彩な起業活動の展開」についてですが、若い女性農業者の起業はもちろん必要だと思ひますが、今頑張っている、地域で活躍されている女性のグループの方たちについて継承していくという取組も支援できたら良いと思ひますので、検討をお願いしたいと思ひます。

### ●保健・疾病対策課

こころとからだの相談室については、秋田大学病院に設置してしまひて、不妊治療専門の相談センターとなっています。こちらでは不妊治療に関する精神的なカウンセリングということで臨床心理士にもお願いし、面接によるカウンセリングなども行っています。こちらは不妊治療専門になっていますので、一般の女性の相談は、健康面については女性健康支援センターが相談窓口となっています。専門の助産師などが女性特有の悩みなどについても対応しています。

### ●次世代・女性活躍支援課

若者の自立支援についてお答えします。現在県内には秋田市と横手市に若者サポートステーションがあり、15歳から39歳までのひきこもりではない、少し社会に出て頑張りたいという意欲はあるが、なかなか踏み出せないという方をサポートしていますが、最近では就職氷河期世代も含めて、49歳までの方を対象に支援をしているところがあります。このほかに、若者の居場所ということで市町村やNPOが運営している施設が県内に17か所ありまして、就職まではいかなくてもボランティアなど社会的な活動に参加することで徐々に就業に向けて支援していこうという取組を行っているところであります。

### ●農林政策課

資料3の「女性農業者が輝く多彩な起業活動の展開」ですが、地域で漬物などを生産していたベテランの方が、若い方へ引き継いだり、また、食品衛生法が変わって漬け物の製

造工場の基準が厳しくなったところを支援するなど、地域ぐるみで活動できるような支援策を講じており、引き続き支援を行っていきたいと考えています。

○小玉委員

精神の窓口が、母子支援だったり、制度によっていろいろな課へ行かなくてはいけないということがあります。支援がライフステージによって複雑だったりするので、ワンストップで、まずどこに相談すれば良いのかなど、分かりやすくなれば良いと思いました。

○山名会長

ちょっとしたことでも相談できるということも大事だと思います。

○竹田委員

こころとからだの相談室の相談人数が、令和2年度から3年度にかけて減少した理由が不妊治療に特化したからとされています。60人以上の方が減っているわけですが、その方たちには受け皿としてどこの窓口を御案内をしているのでしょうか。先ほどの女性健康支援センターで対応していただけるということでしょうか。

●保健・疾病対策課

はい、そうです。

○竹田委員

秋田県こころとからだの相談室のホームページを見ると、サブタイトルに不妊専門相談センターと書かれているので、今後もそういう形で実施していくということなんですか。

●保健・疾病対策課

こころとからだの相談室については不妊治療に係る精神的な問題や治療法に係る相談窓口として実施していく予定です。これまでは、女性健康支援センターの業務もそこで実施していたのですが、これからはアウトリーチの方もやっていきたいということから、女性健康支援センターの部分を切り離してNPO法人で実施している状況です。令和2年度～3年度にかけての相談の減少数は60人くらいですが、相談日数を増やすなどしたことにより、女性健康支援センターには、今年度すでに90件くらいの相談がきていますので、上手くカバーできていると思っています。

○竹田委員

DVの中で、被害者に対しては女性相談所や女性健康支援センターなどで相談を受けていると思いますが、加害者側のケアというか、そういうことによってDVを再度起こさないようにする対策のようなものや窓口はあるのでしょうか。あるいは検討されているのでしょうか。

●地域・家庭福祉課

加害者に関する視点を持ってこなかったというのが正直なところですが、被害者に関しては御質問のとおり、女性相談所を中心として対応しています。DVの被害の中には子どもがいる家庭の場合が多くありまして、「家庭を含めた子どもの支援」ということになりますと、従来から児童相談所が警察と一緒に子どもの視点に立って家族の支援、親の生活スタイルの改善を促すというを行っています。DVの加害者の中には、精神的な不安を抱えてそういう行動をしている方もいると思うので、今後は、児童相談所と話をしながら、視点の一つとして検討できれば、DVの未然防止も含めて改善につながるかも知れないと思っています。

また来年度、女性相談所、中央児童相談所、精神保健福祉センター等が統合して複合化相談施設を設置することになっています。これまでも相互連携はしていましたが、ワンフロアの中に職員が入ることで、より職員同士がやりとりしやすくなりますので、一つの家に対して児童という側面だけではなく、家庭そのものの支援をより密に進めていく体制を構築するつもりで動いています。

○山名会長

ほかにありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次に次第6の意見交換に入りたいと思います。委員の皆様が日頃取り組んでいることや感じていること、課題などについてお話しいただきたいと思います。今までの議論の流れでも構いませんし、ざっくばらんな意見でも構いません。

●柳田委員

非常に幅広い取組を熱心に取り組まれていると感心しているところであります。その中で、特に、資料3の新規事業「経営者等の理解促進（メディアによる情報発信）」は、大変良い事業だと思いました。というのも、商工会の職員が企業を訪問して、経営者に女性の活躍について問いかけを行った場合に、経営者としては女性に管理職に就いて欲しいという思いで本人に伝えるのですが、女性側は家庭のことや、あるいは責任が重くなるのを避けたいということを理由に、なかなか上手くいかないという声が多いそうです。実際に活躍してもらうためには、この事業を通じて活躍する姿を見ていただける場を作る



ことで、自分も頑張ってみようというイメージができるのではないかと思います。はじめから関心を持っていない方にどのように届けるかは難しいと思いますが、メディアの効果的な活用なども含めて、工夫してやっていただきたいと思います。

また、女性農業者の起業活動についてですが、商工業者でも女性の起業の相談がありまして、商工団体としてもしっかりサポートすることにしていきますので、行政と一緒に取り組んでいきたいと思います。最近では東成瀬村で首都圏から移住して起業された例もありますし、商工会で支援して、行政の補助金を使って起業しようという方も増加傾向にありますので、今後も支援していければと思っているところです。

#### ●遠藤委員

医師会の話ですが、女性医学生、女性医師が増えてきていまして、実際には30～40%が女性となっています。先日も、医師会主催で医学生や研修医をサポートする会が開催されまして、陶山理事にも加わってもらって意見交換を行いました。女性が増えることは喜ばしいことではありますが、実際には産前の期間や周産期の休暇は男性は取りにくい状態にあります。加えて、女性医師が休みますと、その影響は、男性医師の当直勤務や時間外勤務の増加などに反映されます。現在、医師の働き方改革が叫ばれていまして、2024年4月に向けて取り組んでいるところですが、男性医師の負担が大きくなりつつあるというのが実際の医療現場であります。できるだけみんなで分担しながら対応していますが、秋田県の医師の充足率は秋田市以外は全国より低く、医師不足が叫ばれている、そういった中で、現実が覆い被さってきており深刻な状況にあるということをお話させていただきました。

#### ○山名会長

先ほど、陶山理事がおっしゃったように、人口が減っていく中でこれまでのやり方を変えていかないと、どこかの職場でも多かれ少なかれそういった問題が出てくるのではないかと思います。

#### ○木山委員

何度かこの会議に出席させてもらっていますが、資料にあるような、各課がどんなことをやっているのか、今の現状はどうなのかという情報を、思い切ってテレビなどで県民にお知らせした方がよいのではないかと思います。もう少し詳しいデータがあれば話の仕方もだいぶ違ってくると思いますし、もう少し短時間で会議が終わるのではないかと思いますので、私の希望としてですが、取り組んでみてはいかがでしょうか。

#### ○小玉委員

男女共同参画の「共同」の部分が薄くなっているように感じます。配布資料にも「一人ひとりが」というような記載があるように、個々を尊重する風潮があり、学校でも、人数が少ない学年で生活する中で視野が狭くなってきていますし、そういった中で、学校に行きたくないという子も私の周囲に多くいます。教育現場に負担を増やしたくない気持ちもありますが、女性だけとか、一人ひとりがというよりも、年代を問わず触れあえる共同生活に向かえるような男女共同参画が良いと思っています。

母子の支援も必要ですが、そもそも「母子」にならないように、相手を思いやる気持ちが必要です。女性だけではなく男性にももっと活躍して欲しいと個人的には思いますし、子どもが少ないという点をプラスに捉えて、一人ひとりの可能性を引き出せるような大人の関わり方ができていたら良いと思います。

#### ○竹田委員

中学生の息子がいますが、男女関係なく過ごしています。先日、男性、女性どちらにも通用するような名前の友達がいたので、男の子か女の子かを確認したところ、今時そんなことを聞くのは古いと言われました。あと10年経って、今の子どもたちが大人になる頃にはずいぶん変わるだろうと思いますが、ただ黙って10年待てば変わるわけではなくて、現在、弁護士会でも法律相談の際の男女記入欄をなくそうとしています、女性に対して配慮する、男女を問わないなど、男女共同参画についての今のこういう取組があって、そういうものを混在させながら取り組んでいくことによって、10年後の変化につながるのではないかと思います。今の子どもは机の並びも男女別にしないという中で育ってきており、男の子でも料理もしますし、ケーキやクッキーを作って持って行ったりもします。こういったことから、環境や教育がとても大事だと感じています。

#### ○長谷部委員

私は昭和26年生まれでまさに昭和の男です。先ほど、昭和時代の発想は通用しないという話がありましたが、本当にそうだと思います。私は10年前に人権擁護委員になりましたが、それまでは「男は仕事、女は家庭」が当たり前のことでした。現役時代は男女共同という意識もなく、研修会もない時代でしたが、10年前に人権擁護委員になって男女共同参画委員会に参加して目が覚めました。LGBTQについても、それまでは特に意識することもなく、誤った認識を持っていた時期もありましたが、教育されて目が覚め、今は180度考え方が変わりました。今は正しく理解して男女共同参画委員会の委員長としても頑張っています。

#### ○松坂委員

私は自治会の関係で出席させていただいています。資料3の中に「地域社会における女性の参画拡大」として「自治会活動をリードする女性人材の育成」という記述がありますが、自分の立場からいえば、大事なことだと思います。自分が寝起きする、住んでいる場所なので町内会、自治会が安全で安心で明るい場所でないといけないと思っています。

自治会や町内会では、街灯の整備や交通安全や道路の修復など、行政とやりとりをしますが、女性はそういうものに対して尻込みする傾向がありまして、そういうのは男性の仕事だと言われることが多くあります。私の自治体では役員の半分以上が女性になっていますので、何かを決める時に男性ばかりで決めるということはないですが、どうしても会長が決めなくてはならないことはあります。百人百様な意見をまとめなくてはならないというのが実態であります。冠婚葬祭など、全て会長がやらなくてはいけないのかということもありますが、明るくコミュニケーションをとっていくためにはそういうことも必要ではないかと思っています。

秋田全体の最大の問題は人口減と所得が低いことです。女性役員も多くが仕事していて専業主婦はほとんどいません。コロナの関係で職場から町内行事への参加にストップがかかってしまい、婦人部にいつも段取りを依頼するものでもできないこともあります。今は共稼ぎが当たり前で、その上に男女差が大きいことが問題なので、もっと余裕のある生活ができる所得水準に引き上げていかざるを得ないと思います。これは広範囲にわたる問題なので、誰がどのように進めていくかが重要で、そのためには資金や人材が必要になります。目標ばかり広げては上手くいかないで、例えば10の目標があれば二重マルは一つとかマルは一つとか、優先順位をつけて、今年度はこれをやりきるというように一つずつ絞ってやっていけば段階的に進むのではないかと思います。

これからは男女問わず物事を決めていかななくてはいけないということが根底にあり、それを常態化していくためには教育が重要で、デートDVも含め、小さい頃から、若いときから浸透していると、将来自然に社会でもなじむのではないかと思います。副読本のリニューアルがあったようですが、私にも一部いただければと思います。

#### ○山名会長

委員の皆様、ありがとうございます。それでは以上をもちまして本日の議題は終了しますが最後に何かよろしいですか。

#### ●次世代・女性活躍支援課

これまで男女共同参画の副読本と少子化の副読本の2種類あったものを、昨年度、互いの親和性が高く内容が近いことから一体的に作成しました。今年度から、小中高校の特定の学年一人ひとりに配って学校の授業でも活用をお願いするとともに、家庭でも御覧い

ただくよう配布しています。男女共同参画はもちろんですが、自分の人生設計、ライフプランを創造したり、ふるさとの良さを感じてもらったりなど、いろいろな視点から、教育の現場の意見を聴きながら作成したものです。副読本につきましては、後ほどお示しいたいと思います。

○山名会長

それでは、以上で本日の議題すべてを終了しましたので、進行を事務局にお戻しします。ありがとうございました。

●次世代・女性活躍支援課

当審議会の現在の委員の皆様の任期は令和4年12月19日までとなっており、この体制での審議会開催は今回が最後になります。これまで第5次の推進計画策定など、丁寧に御審議いただきありがとうございました。

では、これをもちまして、令和4年度秋田県男女共同参画審議会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。